

トピック

福島りょうぜん市民共同発電所 発電を開始

自然エネルギー市民の会 /NPO 法人自然エネルギー市民共同発電 中村 庄和

自然エネルギー市民の会 /NPO 法人自然エネルギー市民共同発電(以下、NPO 市民共同発電)が福島県農民連と連携してすすめていた「福島りょうぜん市民共同発電所」(福島県伊達市霊山町)が9月4日夕方から発電を開始しました。10月5日(土)に「完成を祝う会」「福島県農民連との交流会」を、6日(日)には、福島県農民連の方の案内で、未だ帰還がかなわない飯館村、南相馬市、浪江町の被災地を見学しました。

あいにくの雨模様のなか、ほとぼしる熱気 完成を祝う会に約50名参加

北海道、宮城、福島、埼玉、東京、奈良、大阪などから出資者が、また福島県農民連からも多数の方が参加されました。

祝う会では、NPO 市民共同発電の和田代表理事が「私たちの会は10年前に発足した。自然エネルギーを普及することで、社会全体をよりよいものに変えていきたいという思いでやってきた。それが、福島県農民連のみなさんと協力し、大きな第一歩を踏み出した。今後、一層広げていきたいと思う。」また、福島県北農民連会長で、発電所の土地を提供された大橋芳啓さんは「市民共同発電所が完成したことで、このようとりくみが、みんなに認められるようになった。再生可能エネルギーを普及し、原発ゼロをすすめる大きなはずみとしたい。この発電所は企業が作ったものではない。市民が協力して実現したことに大きな意義がある。原発による被害の回復はなかなか先を見通せない。このとりくみが農村で、福島で住みつづけられる一つの力になればと思う。」とあいさつされました。出資者を代表して坂本允子さんは「3.11以降、毎日、テレビで状況を見ていて私にも何かできないか考えていた。もう年なので、被災地に行くのは、かえってジャマになるのではないかなどと思い、悶々とした2年数カ月だった。出資という形で微々たるものだが協力できて嬉しい。」などと述べられました。



NPO 市民共同発電と出資者の代表、福島県農民連によるテープカット



記念写真、みんな笑顔です。発電所を囲む木柵は農民連の地元の方が作りました。

福島復興基金を創設

このプロジェクトでは、売電収入の2%を福島復興基金として毎年積み立てます。また、NPO 市民共同発電の収入のうち経営に影響を与えない範囲で福島復興基金に寄付をします。基金の運用はNPO 市民共同発電と福島県農民連で協議・審査をし、少しでも福島復興に役立てたいと考えています。

「何ができるか悩んでいるときに」 「出資者として福島と20年間かかわる」

祝う会の後、福島市内で出資者、市民共同発電、福島県農民連の交流会を行いました。

出資者からは、市民共同発電の出資だなんて、こんなお金の使い方をしたのははじめて。」「大阪に住んでいる、震災後、何かしなければと思っていたが、何一つ役にたてなかった。りょうぜんの話があったとき、ぜひとも出資をしようと思った。」「メールでこの話が回ってきたとき、詐欺ではないかと不安になった。完成して本当に嬉しい。福島が再生可能エネルギーの推進基地になればと思う。」「若年の僕、なけなしの貯金をはたいて1口出資した。ここに来て、あのパネルの1枚は僕のもの実感できた。」「福島は自分自身の問題だと考えている。市民共同発電所に出資した限りは20年間、福島とかかわる。」など、出資に至った率直な気持ちが話されました。

農民連の方からは「福島は忘れられたのではないかと思っていた。天気の良いなか、全国からこんなに駆けつけてきてくれて、本当に嬉しい。」「発電所は霊山支部が地元だから、地元で発電所を囲む柵を作ると農民連事務局から。がんばって何とか納期に間に合わせた。今度は草刈もやれ、との指示だ。こんな指示があってもいいね。我々の発電所だから。」「毎日、天気は気になるようになった。市民共同発電所の隣に



交流会のようす、発電所にかかる期待がひしひしと伝わってきました。

作った農民連の発電所は県北農民連第一発電所と名付けた。県北農民連の組合員農家のすべての電気を賄うには1500kWが必要だ。これから二号機、三号機を作るとの思いを込めた。」「[「全国農民連でも自然エネルギーの利用が高まっている。しかし、どこから手をつけていいのか困っている。この市民共同発電所が完成し、どうすればいいのか、我々でもできる、という全国のいいモデルになった。」など、市民共同発電所に寄せる思いが話されました。

さらに広げたい市民共同発電所

福島りょうぜん市民共同発電所は、建設費2000万円の出資募集を募ったところ全国から申込があり、想定の1.5倍を超える出資希望がありました。出資者の思いは様々ですが、福島復興や自然エネルギー利用を市民の力でという共通したものがあります。まだ小さな発電所ですが、福島県農民連と協働して県内で二号機、三号機の設置を目指していきたくと考えています。

メッセージ（福島県北農民連会長：大橋芳啓さん）

広島・長崎への原爆投下から68年、原子力という巨大エネルギーと巨大資本に立ちほだかれ空虚な時間を費やしてしまったと思われています。原発事故の被害を直ちに受けた福島私たちは、現時点でも死と隣り合っているような、この危険なエネルギーの実用にはストップ以外にないと声を大きくすることが課せられています。

今からでも遅くはありません。と言うより、これからの取り組みが大切なのではないでしょうか。自然と地域が持つ力を活かすエネルギーこそ、将来にわたって、安心で頼りになる方策と信じています。

始末のできない福島原発事故をかかえながら、再稼働や輸出を何の反省もなく叫ぶ安倍首相の言動には、怒りに加えて道理の欠如を強く感じています。

市民が共同すればこんなこともできるのです。再生可能エネルギーの推進と循環型社会への構築を描きながらはじめたのが太陽光発電所です。大阪のみなさんをはじめ、全国各地からのご支援と励ましを受けて完成いたしました。晴れた日には稼働している計器の音が一段とさわやかです。

小さな発電所だけれど、大きな希望をもてる第一歩です。これからも共同の力を強めていきましょう。